

宇宙を超える地球人の使命と可能性

木内 鶴彦 KK ロングセラーズ

- 第1章 第一回の臨死体験
- 第2章 どんな情報でも取り出すことのできる「膨大な意識」の存在があった
- 第3章 彗星発見にあこがれる、やんちゃなこども
- 第4章 彗星探索で教えられた地球の危うさ
- 第5章 私が見てきた宇宙の始まり・月の誕生
- 第6章 臨死体験で見てきた医療
- 第7章 「意識体となってみてきたこと」を検証する
- 第8章 近未来からの技術を今へ
- 第9章 我々地球人に与えられた使命
～「過去」と「未来」から学び現代への提言を記す～

(はじめに)

私は今から40年前、1976年22歳の時に茨城県にある自衛隊百里基地で運用管理者として勤務中、突然強烈な腹部の痛みで襲われ失神し救急車で運ばれた、この時初めて「臨死体験」を経験し意識が肉体を離れて時間と空間を超える過去・現在・未来の行きたいと思うところへ行けたのです、衝撃だったのは地球の相反する未来の映像も見た事です、又過去の有名な歴史上の人物の意識体に入り込むことが出来たのです、この体験後医療の常識を超える心肺停止の死亡状態となり乍ら私は30分後に生き返ったのです、この臨死体験中に3人の友達を訪ねていた事を彼等に告白してみると間違いありませんでした。

立花隆さんの著書「臨死体験」で取材を受けたり、特殊な体験が徐々に世間に知られる様にもなりました。自衛隊を辞め子供の頃から大好きだった彗星探索を本格的に始め35歳から4つの彗星を発見、内二つにKIUCHIの名前、小惑星にも名前を付けられる名誉な幸運に恵まれました。

当時軍事利用に限られたインターネットの一般への無料公開に必要性を痛感し米政府の関係者に訴え大激論の末、全世界の人達に無料公開される事になりました。三度の臨死体験の40数年の歩みをまとめる事で人間が生まれてきた事の意義を読者の皆さんと共有できる事を願っています。

第一章 第一回目の臨死体験

*激痛で死の淵へ～72kgの体重が翌朝には42kg迄減少、急激な脱水状態で点滴しかなく術がなく医師達は私が生きていることが不思議だったと言います、両親に対して「もってあと1週間位」と余命宣告しているのが聞こえて、

ああ私も死ぬのだ、と実感し好奇心と探求心の強い私は無の世界に行けるかもしれないという楽しみが生まれ死を受け入れる一方「実はこれもやりたかった」「あれもしたかった」と、後悔の念が津波のように押し寄せてきた。

* 第一次臨死体験 “向こうで皆待っているからついておいで”

～著名なジャーナリストの立花隆さんが私の臨死体験を綿密に調査・取材して文芸春秋に纏めています。私が体験した第二次臨死体験の例は立花さんが開口一番「あなたの体験は“死亡体験”で世界中であなただけですよ」と言われた。

* 第二次臨死体験(死亡体験)～もしかして過去や未来にも行けるかもしれない、度重なる二つの未来～過去に行けたのだから未来にも行けるかもしれない・・・と、そこで「未来！」と、強く意識してみました・・・中年男性が 30 人程の若者に向かって講演→なんと、年取った私でした。

* 心肺停止後の 30 分後に生還～過去や未来に行った事が本当だったのか夢だったのかどうしても生き返ってきちんと確かめたいと思った、身体に戻って意識が回復する迄 10 数時間も経っていて 30 分もの心肺停止の私の特異な例は最初の治療成功例として記録され学会に報告されています。

第二章 どんな情報でも取り出すことが出来る“膨大な意識”の存在があった

私が体験したのは死です、肉体は終わっても意識だけは途切れなく存続しているので、この意識に包まれると太陽系・地球・人間・動植物・全ての生物生命体の誕生からその終焉までの全ての莫大な量の情報が私のものとなったのです、瞬時にして分かってしまったこの膨大な意識は米国のエドガー・ケイシーが催眠状態で人知の及ばない様々な情報を引き出して“アカシックレコード”と呼んだ事は有名な話で私の体験と同質なものだと言える気がします。死んだら肉体は消え意識だけになって膨大な意識に吸収されます肉体がなくなるだけで意識は永遠の存在と云えるでしょう今現在でも意識体となれば瞬時に移動できる事を私は3回の臨死体験で確認する事が出来ました、但しいつの時代のどこにいる自分の肉体かを明確にして強く念じていないと戻れない事も分かりました。

第三章 衛星発見に憧れるやんちゃな子供

* 高校1年の間に三度の退学を体験

* 超難関を突破して自衛隊のディスプレイに～通信教育のお陰で当時競争率は100倍以上と言われた運行管理者試験に合格した。

第四章 彗星探索で教えられた地球の危うさ～天文学を学ぶ日々

* 臨死体験を経て職場復帰したものの緊張とストレスが多い職場は身体に決して良くないと医師から注意もあり1年後に退職し友人の誘いもあって故郷に戻った。

* 宇宙が奏でる音楽は“バッハのチェンバロ協奏曲第三番”

* 相次ぐ彗星発見報告～彗星探索を始めて7年目の1990年3月16日35歳とうとう念願かなって初めて彗星を発見「チェルニス・木内・中村彗星」

と命名されました同年7月16日には「土谷・木内彗星」を発見1993年には北海道の北見観測所で円舘金さんと渡辺和郎さんが発見した小惑星(5481)が KIUCHI と命名されました。

*2126年に地球衝突の可能性のある彗星

～映画監督の龍村仁さんが有名な映画「ガイアシンフォニー」の第一作を製作する為にスミソニアン天文台のマースデン博士にインタビューした時にとんでもない事を知らされた私の発見した「スウィフト・タートル彗星」は2126年に地球に衝突の可能性があると、この事を多くの人に知らせようと必死でした、その中で海外の科学者達から寄せられた意見の多くはスウィフト・タートルがやって来るまで地球環境の方がもつかどうかの方が緊急課題だというのです。

*スピルバーグ監督の映画「ディープ・インパクト」

～地球環境と彗星の衝突問題は人類全体を巻き込む！と全身全霊で訴えたのがキッカでスピルバーグ監督のハリウッド映画「ディープ・インパクト」が出来ましてこの中で主人公の高校生のモデルが私だったと耳にしました。

第五章 私の見てきた宇宙の始まり・月の誕生～33年後の2回目・3回目の臨死体験

*2009年7月55歳、中国上海で行われる皆既日食観測ツアーの講師として現地の空港に着くと600人もの参加者がいると判明、気が動転して凄いプレッシャーでした。夜中になり土砂降りとなり相次ぐ雷鳴で目が覚めほとんど眠れないまま朝を迎えた、土砂降りは小雨になり雲も薄くなり皆既日食が始まった瞬間雲が切れて黒い太陽が見事に現れた。私は翌朝に大量の血を吐いて倒れ、傍にいた人の話では吐血量が5000cc位あり救急車で病院に着いた頃には完全に心肺停止状態で中国外務省からの連絡で「その患者を中国で死なせてはならない何としても助ける事」との指示があったらしく中国科学院のエリート集団の医師団が私の手術を担当してくれました。

*動転することなく未来を見に行こうと決心～私が又意識体となってあちこち探訪し、証拠を残している間に医療チームは必死で私の体を救おうと格闘、医師達のやり取りは中国語ですがミトコンドリア間のテレパシーで中国語が分かった！

*身体から抜け出したとき自分に向かって命令した「細胞再生！」もう一つは「随分頑張ったのだからもう楽になってもいいよ」という声のようなものが感じられたのですが頑としてこの誘いには乗らなかったことも生きて帰ってこられた理由だと思います。戦国時代の武将の逸話で重症の傷を負っても{あれが食べたい}と強く意思を持たれた人は命が助かったそうです。

*宇宙の誕生、それはひずみから始まる～臨死体験をした時、子供のころから知りたかった「宇宙の始まりはどうなっているのか」で、私が経験した膨大な意識体の世界は五次元の世界です、そこは完全無欠でバランスが取れて「無」の風景です、縦・横・高さがあり物質が存在する三次元は五次元という完全な世界にひずみという変化を与える為にあるのかもしれませんが

「ひずみ→渦→ビッグバン三次元世界の物質」へと変化していくので意識体に変化して物質が生まれたという事です。

- * 月はどの様にしてできたか～彗星は核となる部分が岩石でその周りが氷の塊で太陽に近づく事で表面が一気に融け蒸発し地球に引き寄せられた場面を私は見た、地球は大洪水となり地球の三分の二を覆う程で陸地は水没し 5 つの大陸に分断され人類も大きな犠牲者が出て僅かに生き残った人類は北アフリカの高地に逃げました。
- * 月の誕生で激変した地球環境～大洪水前の引力が弱かった頃に生息していた恐竜のような巨大動物が自分の体重を支えきれなくなり人間も例外ではなく当時は2～3mもの身長があり寿命も 300 歳程だったのが洪水後は身長も寿命も現在のように縮まったと考えられます、私が計算したところ、月から移ってきた水分量と地球の水分量がほぼ一致、一万五千年前の月の出現により地球に大洪水がもたらされ地球を劇的に変えました。
- * 消失した文明・原始時代からのスタート～月の出現による大洪水は人類にもう一つ大きな影響を与えそれ迄テレパシーで互いに意思疎通ができ争い事は殆どなく平和な世界で高度な文明を享受していた様に見えました、そこに天変地異の大洪水で陸地は滅り多くの犠牲者を伴い苦難の歴史、つまり原始時代からのスタートです。というのも臨死体験で見てきた高度の文明では都市は地下に作られ、道路や線路で自然の生態系にダメージを与える事を避け空中を移動する今でいう UFO のような乗り物を利用、緑がうっそうとして繁り何と恐竜と共存していました、少ない食糧を巡って争いが起きる様になると人類はテレパシー回路を閉じ自分だけ我先にという自我が生まれました、結果として敵対心・猜疑心・競争心・比較・差別等当たり前となり意思疎通が必要となり「言葉」になったのもこの頃からです、生き残った人類は争いに敗れるとより良い暮らしを求め新しくできた五大陸に安住の地を求め散らばっていった様です。
- * 太陽の熱エネルギーが生命を出す元～22 歳の臨死体験で生死をさまよった時に、どうしても知りたかったのが「生命がどうして誕生したか」でした地球上では原子力エネルギーを始め太陽光・地熱・風力等自然エネルギーが利用されていますが太陽系の中には太陽を超えるエネルギーはない事をここでしっかり理解しておくべきです。
- * 彗星が生命を運んでくる～私が彗星に魅せられ研究を重ねた理由は「わあ綺麗だ！」という感動もありますが彗星が生命を運んでくる存在だからです太陽系の外側に広がっている星間ガス・高分子のここからアミノ酸や水の分子などが生まれ我々の本当の故郷の様です。

* 細胞は放射線の電子エネルギーを栄養とした。

第六章 臨死体験で見てきた医療

- * 病気は細胞レベルで、どう起きるのか～27 歳の頃“太古の水”を作りました、この開発のきっかけは臨死体験で見てきた地球の姿がその基本となっています。定年退職されているお医者さんのグループとご縁が出来、

その研究会は「ガンを治す」大きなテーマでした、私は物理学を中心に学んでいたため原因があつて結果が出るという思想回路になっていて「細胞がどの様になったら病気と呼ばれるのか基本を教えてください」と質問しましたが医師がおこなっている治療は全て{対処療法}で明確な答えが返ってきませんでした。

* 生命発生の場合となつたのは“水”

* 病気は不必要な金属イオンを細胞の外に出せない状態、老化もここが引き金となつて促進される要因なのではないかと考えた、ガンや老化が進むと尿の中に金属が出てくる、つまり溜まってくる、これをスムーズに出せないかと・・・

* 溶解度が高く腐りにくい活性水が出来た～臨死体験で見た光景を思い出し、更に月の出現によって地球が増水した事等を計算していくと当時は 1 気圧高かった事が分かり多くの物質を溶かす能力つまり溶解度も高かった、一年半かけ複雑な工程を経て安定した状態の活性水“太古の水”が 1993 年にできた、名古屋大学のある先生からヒントだけ教えて欲しいと言われ「海から湧き出る水もそうですね」と答えて 1996 年頃「海洋深層水で癌が良くなった」と新聞に載り広まった。

その後先生はハーバード大学からハワイに戻られ、暫く研究を手伝い私の水の活性が安定している事を知り「どうしてそうなのか」を説明したら、又驚いていました。

* 私が作った“太古の水”の応用・効用～癌の研究をする医師グループとのご縁でこの水を試してもらうことが出来た、結果は私の予想を超えるものでしたが評判が広がるにつれ水で健康になるという噂話が広まり、医師でもない私への批判の嵐となつてパッシングの対応に疲れはて、とうとう水の製造を止め、封印してしまいました。

* 未だに分からない不思議な結果～それから 20 年友人から「友人が末期がんで手の施しようがないあの水を飲ませてあげたい」との依頼さんさん悩んだ末に“太古の水”を友人に届けに行き、一つ条件で患者さんの変化を MRI で詳細な記録を取り見せて欲しいと、友人は快諾、患者さんは余命 2 週間と宣告されていた、しかしこの水を飲み始め 2 週間後の検査で悪性腫瘍が良性に変っていた、多方面の先生方が水に興味を持っていただき実験や検査が行われ 4 つの特性が分かった「濃度、金属との融和性、表面張力、周波数」私が原液と呼んでいるのは太古の水を 1 万倍に薄めたものです、それを健康維持の為・病気の為に飲む時は更に千倍に薄めて飲みます、1996 年新聞記事に名古屋大学医学部が海洋深層水を患者さんに飲ませて病気が良くなった記事が出ましたが、太古の水も千倍に薄めると海洋深層水とほぼ同じ数値になります、NMR で測定した周波数は地球上の水は 61Hz、ルルドの泉や海洋深層水で 62Hz、太古の水は原液で 96、4Hz、千倍に薄めて 62、2 Hz でした。

* この水は細胞を再生し蘇生させる力があると考えられる

工場排水に 1 千万倍に薄めた“太古の水”を 2～3 滴たらし密封したものと、排水のまま密封したものを 3 ヶ月後に松本歯科大学で残留物検査してもらったら太古の水を入れた排水はすんだ水に藻が発生し化学物質を分解、検査した先生は

「この水は細胞を再生し蘇生させる力がある、それで水を浄化できるのだろう」と、排水そのままの方はピンク色に変色し悪臭を放っていた。

- * 意識の力は確実に細胞に影響を与える～私の講演会によく来て下さっていた四国の A さんが癌ホスピタルに入院、私が訪れた時は余命数日という状況で骨と皮の状態でした、その時持参したのが五次元から三次元に変える時に聞こえた「韃靼人の踊り」の CD でこれを聞いてもらった、下血がひどいと聞いていたので「造血し続けろ」という意識を A さんに転写すると、少しずつ元気が出て普通病棟に移れるほど回復、その後 A さんは私の講演会に新幹線を使って駆けつけてくれるようになりました。福岡の駅前で「みどりクリニック」三角大慈というユニークな内科医で鍼灸も併用し患者さんに「最初は眼の検査をしますからこれを読んでみてください」と渡す文章に「今日は実に爽やかだ」「今日は実に気分がいい」「今日は物凄くいい事がありそうだ」と書いてあり、おまけに大きい字からだんだん小さくしてある～〇〇の調子が良くて・・・と来院の患者さんに「最初に目の検査をします・これを読んでみて下さい」と言って渡すとチャンと真剣に読み、読み終わった頃には明らかに顔付きが変わっていて大多数の方がそれで調子が良くなり帰って行かれるそうです。

～正に「言霊」の持つ周波数が体調を良くしているのだと～

第七章「意識体となって見てきた事」を検証する

- * ピラミッドの秘密～私が意識体となって「見てきた」事はこれまでの歴史とは違いますがあくまで私の体験でつくづく不思議です一番驚いたのがピラミッドの石の秘密でしたあの時代に石を溶かしたり粉々になった石を固める技術があったからですピラミッドの石は花崗岩でそれを砕いて砂状にして運び植物から作った液体と混ぜて固めました、臨死体験で私はそれを見ました、時間の経過と共に石の強度が増し大きな型枠を使って同じところに凸凹の癖のあるはしらを現地で幾つも見つけ同じ型枠を使って作ったことが分かりました。
- * 神社の柱に残してきた謎の文字～最初の臨死体験から 20 年近くたったころ、高知の土佐神社の前でここは来たことがあると感じ宮司さんに話しかけたところ、その神社には江戸時代に起きた不思議な出来事が伝わっていると「工事でやってきた大工さんが休憩していたら目の前の材木に“つる”のような文字が突然浮かび上がったという記録が残されている」と、実は私が意識体となってここに来た証拠に残したくて大工さんの中に入って書かせたというのが真相で臨死体験から何年もたって忘れていた私の方が驚きました。
- * 高野山清浄心院での驚きの体験～1994 年 10 月「将来世代フォーラム」という集いでアジアの留学生を前に「宇宙から見た地球」と題して講演する事となり 14 回シリーズでその最後が高野山の会場に案内された時にわが目を疑いました、18 年前に臨死体験で見た未来の映像そのまま、床の間の掛け軸の絵の色も構図も同じだった。
- * 過去で私のメッセージを受け取ってくれた出口ナオさんと中山みきさん

(大本教開祖と天理教開祖)臨死体験で未来を見てこれは過去の人に伝えなくては
いけないと思いました、物質文明・拝金主義が蔓延して人間の慢心と精神的な墮落
から環境の悪化、社会の破滅的な混乱が到来する未来像を見ました、それをどの様
に軽減するか避けることが出来るのか、基本的な事を江戸時代から明治にかけて私
の意識と繋がる事のできる限りの多くの人々に伝えて回りました、臨死体験として自分
にしかできないメッセージとしては星の運行計算式、近代航空学の知識、気象学の
知識などを伝え、私が生き返った時にこれが残っていれば確かに自分がそこにいた
事の証明になるからです、出口ナオさんの筆先と呼ばれる自動書記をしていた岡本
天明さんの本にそのことが載っていましたので鳥肌が立つ思いでした。

* 見てきたイエスキリスト～1 回目の臨死体験で過去の気になる人物に会いに行きまし
た、イエスキリストは名前を「イサヤ」と、言い預言者で、ナザレという女性と出会い
イサヤの子供を身ごもりました、実はイサヤは十字架の上では死んでいません、死刑
執行人のローマ人がひそかにイサヤの考え方に心酔していてわざと急所を外し大雨
だったあの夜に代りに死んだ弟の亡骸を入れ後日、石棺を開けると傷が消えていた
ので第一回目の奇跡とされました、数ヶ月して傷も癒えた頃、イサヤはペテロとパウロ
に会い彼等にイサヤの傷痕を見せた為に生き返ったと誤解をしたのです。

* その後のイエスの足取り

～余談ですが私の作った“太古の水”を関西方面のシスターがパーキンソン病でお困
りだったローマ法王ヨハネ・パウロ二世に密かに送っていた、そのせいで回復されたと
思っ下さり2001年10月バチカンにご招待を受けました。

イサヤは砂漠の緑地化の重要性を訴え乍ら徒歩で大陸を横断し台湾・宮古島から
船で日本に来ます、最後に辿り着いたのが諫早というのが私の考えです。

～四国の剣山は世界で唯一縦に虹が出るところで地中からの磁気に絡みつくように
光の柱が発生します、この柱に乗って昇天する事が聖なる人の証とされイサヤもここ
を訪れています。

第八章 近未来からの技術を今へ

* 全てのエネルギーを電池化に～臨死体験で見てきた近未来の街には送電線があり
ませんでした、全ての家電製品・工作機械に電池が使われていまして3～5年は持つ
という種類のもの、不要の古タイヤやゴミを高圧・高熱処理して出来た炭素以外の
気化ガスに全て透明化し・つまりよい状態の水素が取れるのでこれを利用するよう
になると未来の水素燃料は大変安く使えるようになります。

* 未来からヒントを貰った太陽光そのものを活用する発電システム

- ① 凹面鏡やレンズに太陽光を集め焦点を結ばせる
- ② 単体もしくは複数のレンズを使って光を1つに纏める
- ③ ここで生まれたエネルギーをどのように利用するかもシステム特許とした

この木内式発電システムは日本が知的所有権を有し

JETRO(日本貿易振興機構)が世界に向けて広告・発信し応援してくれています実現にこぎつけるには私の技術では限界があり、これは新しい一つの柱でこのアイデアが土台となってドンドン改良されることを希望しています。

第九章 我々地球人に与えられた使命

- *なぜ人間として生まれたのか～人間には生態系を整え次世代の子供達にこの地球を受け継がせるという義務があります私は臨死体験を通して確信するようになりました
- *今ある命と肉体を大切に生きる～肉体があつて様々な試練を体験して努力して嘆き悲しむ、それこそが人生だと分かりました、そこで得る感動こそが生きている最大の喜びと言えます人の温かさや思いやり自然の恵みに感謝・経験する事で肉体をしっかりと大切に使い切って人生を全うする、好きな事を諦めないでやっていると奇跡の様な変化が起きました、この肉体の能力を最大限に引き出す為に“自分は凄い”とほめてください、そうすると細胞が活性化して元気になってゆきます、病気になったら“正常になれ”と自分の細胞に宣言し命令すると・細胞自身が治ろうと決めます、その事は私が体験しています。
- *植物の危機は人間の危機～ヨーロッパの植物学者が「君の云う惑星衝突は100年以上先の事で其れ迄に植物が枯れて地球が持たないと植物学会で調査報告されたから君の提案や計画は無駄になるだけ」との予測は衝撃的でした植物の死は動物の死に直結し勿論人間も含まれます植物が枯れると酸素濃度が低下するだけでなく二酸化炭素が地表を覆う為、我々の生活が困難になってきますオゾンホール拡大など実際に誰の目にも明らかな環境破壊の証拠が突き付けられています。
- *八百万の神々が分かる日本人だからできるはず～日本人として生まれてきた意味を今一度問いかけて下さい、古代から太陽の光・水・火・空気・土・海・山・磐座・植物生きとし生けるものが住むこの自然そのものに「八百万の神々」が宿っている事を感じ取れる日本人に「この役割」が求められています。
我々の役割と使命は大きいと思います。

(おわりに)

臨死体験は地球の未来の為に役立てるように起きて私は生かされたのだと確信しています、死にかけて時に私を襲った怖い程の「後悔の念」が忘れられません「ああすればよかった、本当にやりたかったのに」と、たった一度の人生です、悔いを残さず生きましょう！この事も私の伝えたい事です。

自然環境とその循環を大切に守っていきましょう！

人間として生まれてきた我々地球人共通の最大の使命だと思います。